

トレイルランで山の魅力を再発見

ラン・プラス・トレイル

# RUN+TRAIL

RUN+TRAIL

vol.34

[www.facebook.com/runplustrail](http://www.facebook.com/runplustrail)

和みたいなら2019年はあの地へ!

▶▶ 全**27**大会

## LOCAL RACE

SEASON REVIEW

各地の特色ある大会を  
参加者がレポート

修験道と山旅。

トレイルランとの接点

聖地・大峯奥駈道へ  
高尾山にもある修験の世界

# 最速の 源流の

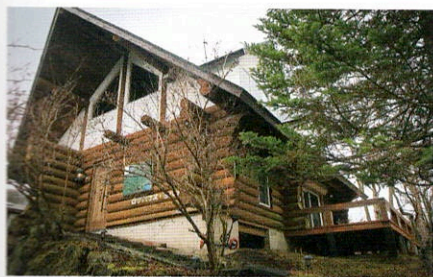
海外トップ4選手インタビュー

キリアン・ジョルネ / ジョナサン・アルボン  
ジャスミン・パリス / デイラン・ボウマン

## あの超人も昔は凡人だった。

努力で花開くのがトレイルランの世界  
国内トップ選手も始めた頃は……!?





## ジェローム・ラストピ 「富士山麓に魅せられたフランス人」

トレイルランをきっかけに人生が変わった人がある——  
フランス大使館での警備の仕事で来日したジェロームさんは  
日本にとどまるため、富士山麓での生活を選択したという

磯村真介 (100miler) =文 藤田慎一郎 =写真  
Text by Shinsuke Isomura Photographs by Shinichiro Fujita



Lastapis  
Jerôme

U T M Fのおかげで、富士山麓の豊かな自然に気がついた。そんな人は少なくないだろう。平均的な日本人にとっては、富士山のトレイルとは5合目から山頂までの往復だ。ご来光を拝むことが目的の、ちょっとハードな観光地になっている。もちろんそれも面白い。でも、富士山はその裾野にも、いや裾野にこそ豊かな自然をたたえている。まるで海のように緑が生い茂る樹海はそのひとつだ。それに、富士山自体も周囲の山々から眺める方がはるかに荘厳で美しい。

ジェローム・ラストピさんのマウンテンライフは山中湖の近く、平野の別荘街にある。ログハウスをベースにした木造の小屋を改装し、「3776D」と名づけたアウトドアベースを立ち上げた。吹き抜けが気持ちいいこの「秘密基地」には、トレイル&ハイキングガイドとしての仕事をスタートさせたジェロームさんのやりたいことが詰まっている。1階は山帰りにひと息つけるカフェ&ベーススペースになっていて、2階は最大7人が寝泊りできる簡易宿泊所。宿泊スペースにある三角窓からは富士山が望め、ウェア&ギアのレンタルも充実している。「1泊2日でU T M Fコースの試走を」というリクエストが手ぶらで行ってもかかってしまう。ジェロームさんはフランス出身でフランス語と英語に長けるため、この取材の前の週に



はフランスからのお客さんをアテンドしていた。リクエスト内容はもちろんUTMFコースの試走だ。「山中湖のツーリズムと連携して、日本国外からのお客さんをアウトドアアクティビティへとアテンドできるように動いているところなんです。Airbnbに登録しているので、単なる寝泊りのためのスペースとして使ってもらうこともできますが、できればこのフィールドのトレッキングやトレイルランのガイドをしながらというスタイルをメインにしたいですね。夕食は、同じ別荘街で営業されている飲食店からケータリングもできます。数十年前の別荘ブームの頃と比べると人口が減っていて、とくに若者が少ないと聞いているので、そういったところでも貢献したいんです。このあたりのがもうすっかり気に入ってしまいましたからね」

### オタク青年からランナーへ

小さい頃から日本のアニメやマンガといったカルチャーに興味を持っていた。山中湖の自分の部屋には大量のマンガ本やアニメのDVD、そしてなんとレーザーディスク(！)もコレクションされている。リビングルームの脇に目を向ければスーパーファミコンミニやネオジオ(!!)などのクラシックゲームマシンも。

「幼少期はとくにスポーツはしていませんでした。毎日ゲームばか



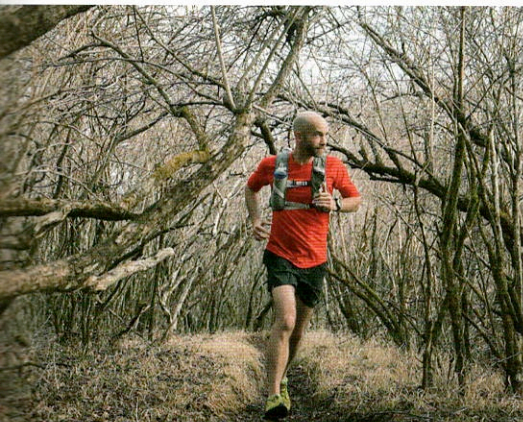
り(笑)。走り始めたきっかけは、走ることが「最初の仕事」だったから。ジャンダルムリと呼ばれているフランスの国家憲兵隊に入隊したのですが、これは主に地方部でポリスとミリタリーの両方の役割を果たす仕事です。入隊後はまず「走れ」と。仕方なく走っていました」

走ることが楽しいと気がついたのはレースに参加するようになってから。30歳の頃にまずはパリ〜ベルサイユを結ぶ15kmのマラソンを走った。キツかったけれど、それ以上に走り終えた達成感や爽快感、相手や自分自身と競うことが楽しかった。それからどんどん距離を伸ばし、初フルは奥さんの母国である日本の東京マラソンで体験した。完走後は筋肉痛がとにかくひどくて観光どころではなかったが、その頃にフルマラソンよりも長い距離を走ることもあるトレイルランの存在を耳にした。

同じ頃、ジェロームさん一家に大きな転機が訪れる。日本のフランス大使館への転勤の希望があったのだ。

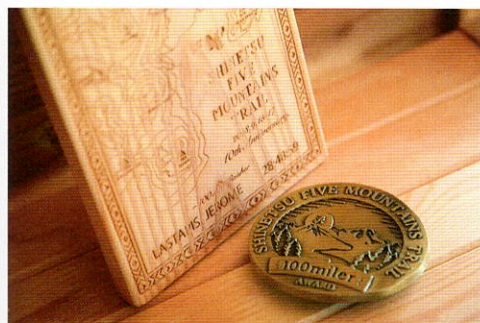
「そこで、フランスを離れる前の記念として仲のいい友人とパリマラソンにチャレンジしました。完走後、次のステップとしてパリのエコトレイルという大会で80kmに挑むことに。でも、いきなり80kmの距離は無謀ですから、まずはベルサイユ近郊のショートレースで初めてのトレイルランレースを体





自然な保温性を持ち、かつ汗冷えにも強いウール製のウェアは寒暖差の激しい富士山麓の生活で重宝する。赤のICEBREAKER/ZONE LS CREW (9800円+税)も、チャコールのTEC LITE LS POCKET CREW (9800円+税)も上質なメリノウールを80%以上混紡。STRIKE LITE SHORTS (9800円+税)もインナーがメリノウール混だ。  
 ☎ゴールドウインカスタマーサービスセンター ☎0120-307-560

## Lastapis Jérôme



### 日本に来る欧米人 フランスに興味のある日本人 その架け橋になりたい

験しました。やってみたらロードの馬拉ソン以上にエキサイティングでしたね。アップダウンがまるでゲームのような感覚で、童心に返れる感覚で。2回目のレースは真冬の大会で、朝から雪が積もっていたので子どものようにはしゃいでいました」

2013年の夏より日本へと移り住むことになり実際に調べてみたら、日本各地に数多くのトレイルランレースがあることに驚いた。日本の国を隅々まで見て回るのは、レースを絡めることほどいい手段は他にない。そう思って各地のレースを転戦するうちに、自分はそもそも山が、トレイルが好きだということに気がついた。

「日本のレースは雰囲気抜群にいいんです。殺伐とした雰囲気はなく、ピースフル。コスプレで走っている人もいて、各々がプライベートなチャレンジを、そして走ること自体をエンジョイしていますよね。とてもいいランニングカルチャーだと思います」

どんな距離を伸ばしているか、2018年にはUTMFと信越五岳トレイルランニングレースで念願の100マイルになった。ナイトトレイルはいろいろとハー

ドけれど、日の出とともに木々や鳥たちが息を吹き返し始め、そのなかを駆け抜けるのは他には得がたい魅力があった。フィニッシュを目前にして、身体中がポロポロなはずなのになぜか脚が動いて走れてしまう不思議な感覚も味わえた。だから今は、ウルトラトレイルの虜だ。2019年は、ひよんな縁からアンバサダーを務めることになった母国フランスのウルトラトレイル「レシャップベル(144km)」を完走することが目下のチャレンジだ。

#### 日本に残る決断

1年ほど前、ジェロームさん一家はもうひとつの大きな決断を下す。フランス大使館での仕事は数年でまた転勤になるため、日本に残るためには新たな職を探さなければならぬのだ。奥さんはすでに日本で仕事を見つけており、子どもたちも日本の生活になじんでいる。だから、ジェロームさん自身も変化することを選択した。新しいチャレンジをするのであれば、どうせなら自然のなかで働きたい。日々いろいろな物件を探しまくって、出会ったのが山中湖のこのロケーションだった。そうして家族

が残る東京と、ここ山中湖との2拠点生活がスタートした。

「UTMFのコースになっているこのあたりは山も、森も、湖も、すべてが美しいですよ。ここから三國山のバノラマ台を経由して、石割山のトレイルを抜ける2・5時間ほどのコースをよく走るので、そのたびに感動しっぱなしです。時間があまりないときは山中湖畔を15kmほどロードラン。いろいろな遊び方ができるんです。まずは自分のこのビジネスを知ってもらって、フランスをはじめとした海外のアウトドア好きな人たちに、この地域の魅力をぜひ紹介したい。日本の山好きな皆さんをアテンドすることももちろんウエルカムです。妻には2年間の猶予をお願いしているので、ぜひ軌道に乗せたいです」

